



[夢と志を育てる学園]

玉手山学園 広報

2018.1 New Year

Vol. **86**

巻頭 理事長あいさつ

さあ どうする 2018年

実直に *“Yattemiyou!”*

建学の精神「感恩」

人は さまざまな恩恵のもとで 生かされている
この真理に目覚め 感動と感謝から生まれる 豊かな心と情熱をもって
人の幸せを願い 行動するとき 私たちは成長し 社会に貢献できる

～「ありがとう」に出会い 気づき 感動 感謝の行動から
新しい「ありがとう」が生まれる～

巻頭 理事長あいさつ

さあ どうする 2018年
実直に

“Yattemiyou!”



謹賀新年 実直に歩む

みなさま 新年あけましておめでとうございます。2018年(平成30年 戌年)が素晴らしい1年になりますよう祈念し、実直に歩んでまいりましょう。そして“Yattemiyou!”です。

学園は第3期(2018~2022)中長期計画がスタートします。

夢と志を育てる 建学の精神は「感恩」 あいさつを増やそう!

夢と志を育てる、この学園に来たら元気・やる気が出てきた、夢中になれるものが見つかった。そんな学園をめざしています。学園の建学の精神は「感恩」です。学園で多くの“ありがとう”に出会い大切にしてください。「笑顔、あいさつ、優しさ」は豊かな心・人格の出発点です。難しく考える必要はありません、実践しましょう。そして豊かな学園生活を過ごしましょう。

今年はず「あいさつ」を増やしましょう!

私も実践します。(理事長をチェック!)



H29秋 Halloween インドからの留学生ではありません 高校生も いいノリ!

「玉手山学園祭」(2017.8.27)を振り返り どうする When is the next or never?

2017年は学園創立75周年、大学開学20周年、高校新校舎竣工の年でした。この感謝と喜びを、みんなで共有(実感)するため、昨年8月に「Tama Project 2017 玉手山学園祭」(学園初の試み)を開催しました。約5,200人(街の人も 誰でも歓迎 学園史上最高数)もの来場を得て大盛況でした。……が、大勢の労力・時間と資金を費やしての、この大イベントは私たちに何をもたらしてくれたのか。的確に把握するため学園内でアンケート(学生・生徒、園児の保護者、教職員)をとりました。(喜びも苦労も知りたい、聞きたい)様々な表現・観点で「よかった」の声を数多くいただきました。しかし、「大きな負担をかけてまで実施する意義があったのか」という趣旨の批判・疑問の声も少なからずありました。本当に学園(学生・生徒・園児、教職員)が成長し、街の方々に喜んでもらえる(この街に玉手山学園があつてよかった)なら、「シンドイ」けれど定期的に開催する意義があります。但し、工夫・改善を加えて進化(特に質・内容(何を発信する))させ続けることが絶対条件です。逡巡しています(迷っています)。積極的な「Go!」の声もありません。みなさまの率直な声を私に届けてください。



玉手山学園祭(2017.8) 「ありがとう」の言葉がうれしい!

学園グッズ トライするリーダーは 高校の藪田先生 “Yattemiyou!”

*Tama Project 2017*のひとつに学園グッズ(定番を)の製作が残っています。一時の記念品としてではなく継続版として、さりげなく母校を意識し役に立ち親しまれる素敵な学園グッズをつくってみませんか。今まで幾度となく“その声”はありましたが、トライしませんでした。“不人気だったらどうしよう”などのマイナス意識もチャレンジの妨げになっていたのでしょうか。今回は本気、“**Yattemiyou!**”です。リーダーにアイデア・アドバイス、何より“のびのびとやって”との温かい激励をお願いします。



学園グッズ…さあ、何を作る? 使いたくなるオシャレなものを!

Tama Square(仮称) リーダーは本部の筒井氏と 食堂デザイン刷新 “Yattemiyou!”

高校蜂の巣校舎は2018年1月末に解体が終了、跡地は新たな快適空間(*Tama Square*(仮称))になります。“どんな広場”を創るか、女子中心のワーキングチーム(学生2名、生徒2名含む)がその構想策定を進めています。その奥に学園本館1Fの食堂があります。想像してください、まさに一等地です。ここを“ゴキゲン”な“**食堂→Restaurant**”に生まれ変わらせたい。食堂デザイン刷新に取り組む新たなワーキングチームを編成します。学生・生徒のみならず、ぜひ名乗りを上げてください。どんな風にしますか? 責任をもって“**Yattemiyou!**”です。



蜂の巣校舎の跡は広場(*Tama Square*(仮称)) イメージ図(ダミー)

ところで短大2号館(解体中)の跡地はどうなる? まだ決まっていません(2017.12時点)

短大2号館も2018年1月末に解体が終了します。その跡地を「広場」にするか、学園に本当に必要な施設を建築するか。」2016年9月から、精力的に協議・検討を続けていますが未定です。(高難度の判断 関係教職員・学生の尽力に敬意、感謝) みなさま、何かご意見があればぜひお寄せください。

その時は構わずやってくる 台風21号(2017.10.22) 4家族19人が学園で一泊

2017年10月22日、超大型の台風21号が日本を直撃しました。学園近くの大和川・石川がレベル4の水位に達し、柏原市にも「避難指示」が出され、学園に避難所開設の依頼がありました。柏原市職員3名、学園職員2名が総合体育館“Do夢”に急行し受入れに備えました。“万が一、念のために…(誰も来られないだろう)”と思っていましたが、4家族19人の方が学園を頼り、不安な“非日常”の1泊を過ごされました。(石川地区の避難所が満杯で学園の方に回ったとのこと。) のんきな自分が恥ずかしい。2017年3月にスタートした「玉手山学園“災害時”行動構想と備え(何ができるか 何をすべきか)」策定の重要性を改めて実感するとともに、今すぐにも始められる“準備”の必要性を感じました。まさかの時は、学園の都合などお構いなしにやってきます。初動が大切、慌てるなど言っても無理でしょう、しかし少しでも対応力を訓練しておきたい。学園は大きな存在です。設備・知識(技能)、何より大勢の若者のエネルギーと豊かな心(自分も何かできないか)があります。玉手山学園の若者たちは、必ずやってくれます。

恩 威

理事長・学園長 江端 源治

第8回関女技能オリンピック

大学・短大 学生支援センター 稲田 杏奈

12月2日(土)に第8回関女技能オリンピック表彰式が開催されました。このオリンピックは、各学科の専門職に特化した技術を競い合う技能大会のことで、技術の向上と自己研鑽を目的として実施しています。10月下旬から11月上旬にかけて各学科で行われた予選・本選にて優秀な成績を収めた学生、ゼミが表彰されるとともに、金賞受賞者による素晴らしい実演が披露されました。

★保育学科

テーマを「幼児のための食育」とし、渡邊ゼミによる～歌・うごき「あさごはんをたべましょう」～が披露されました。



★養護保健学科

テーマは「保健教育」。金賞を受賞した2年鍵岡・大西ゼミの「3匹の迷惑なコブタ」では、喫煙による身体へ影響について楽しく学ぶことができました。



★歯科衛生学科

「患者誘導とスクーリング技術」のテーマのもと、実際の医療現場さながらの患者さんとの対話、衛生指導の実演がありました。



★医療秘書学科

テーマを「初診受付・眼科受付での患者対応業務」とし、患者さんへの丁寧かつ適切な対応が実演されました。



また、今年度は情報センターの協力のもと、各学科の予選・本選の様様をまとめた動画を上映しました。惜しくも金賞を逃した学生やゼミの活躍を紹介することができ、好評を得ました。



保育
フェスタ

第9回造形作品展&こどものための アートワークショップ

短大 保育学科 宇津木 七実



将来、保育職を目指す学生の造形表現に関する学修成果の発表を目的とした「保育フェスタ 造形作品展」は、今年度で9回目の開催となりました。柏原市の広報掲載、各公立幼稚園・保育園及び近隣園、国分図書館等でのチラシ配布のご協力のおかげもあり、地域の方々の来場も年々増えています。学生の未熟ながらも豊かな発想力や、心を込めて作ったことがうかがえる作品を、学生はもちろん320名もの多くの方々に、そして今年は富宅柏原市長にも鑑賞していただくことができました。第4回目から取り組んでいるアートワークショップ会場には、学生手作りの紙バックを嬉しそうに受け取ったり、先生役の学生と一緒にクリスマス飾りを制作したり、ミニシアターを楽しむ子どもたちのたくさんの笑顔があふれていました。



関西福祉科学大学

第15回公開講座を開催しました。

地域交流委員会 委員長 重森 健太

11月19日(日)、関西福祉科学大学 第15回公開講座を開催しました。今回の講座は、「災害支援について考える」というテーマで、社会福祉学科の遠藤洋二教授と立花直樹准教授が活動しているそれぞれのプロジェクトより話題提供を行いました。両プロジェクトとも、日ごろ中心となって災害支援活動をしている学生より実践例も踏まえた発表があり、その活動の様子は参加者からも非常に高い関心を寄せられました。

また、本講座には、地域で減災活動をされている方々や、柏原市役所で災害対策を担当されている職員の方々にもお越しいただくなど、多くの参加者(総勢77名)と共に災害支援について考える良い機会になったように思います。本講座をきっかけに、柏原市の災害対策・減災活動の輪が広がることを期待しています。



Our Stories ～青春ドラマの1ページ～

高校 小森 泉

平成29年度 学園祭のテーマは「Our Stories ～青春ドラマの1ページ～」です。

本校では9月に文化祭と体育祭を合わせて“学園祭”とし、生徒会行事の中心として位置付けています。

文化祭では、夏休み前から各クラブ、クラスがこの日を目標に取り組んできました。クラブ、クラスの発表では、さまざまな工夫が凝らされ、展示・緑日・模擬店・舞台と、どれをとっても力作ぞろいでした。模擬店では、本校では初めて野外(高校本館軒下)での実施となりました。そうすることにより、昨年度の4クラスから6クラスと増やすことができ、少しでも満足度を高めることができました。今年はいいにく朝から雨で、時折、強い風にも見舞われましたが、保護者の方をはじめ、大勢の方に来校していただき、全校生徒と共に楽しい1日を過ごしました。恒例の生徒会体育委員会によるバザーで、今年も売上金を柏原市社会福祉協議会に寄付いたしました。



文化祭に続き、体育祭が開催されました。昨年度は新校舎建築工事の為、高校グラウンドが使えず、学外体育館での実施となりましたが、今回は2年ぶりに本校グラウンドで行うことができました。野外での実施ということで体育祭本来の盛り上がりが復活しました。競技内容にも工夫がなされる中、恒例となってきている各学年による応援合戦は、代表生徒だけでなく学年の生徒も巻き込んだ、パワーあふれるものとなりました。まだまだ手探りの状態ですが、すばらしいパフォーマンスを観客に見せることができました。

昼ごろから雨が降り出し、雨脚が強くなったため、午後の競技の一部が次の週に順延となりました。スプリント決勝、クラスリレー決勝と行われましたが、玉入れ競技では、全員参加競技に切り替え全校生徒が参加する形となり、短い時間でしたが、大いに盛り上がりました。

新校舎(高校本館)が完成し、高校1号館の改修も終了しました。長年親しんだ蜂の巣校舎の解体ももうすぐ終わります。今年を出発点にして、テーマにもある新たな青春の1ページを全校生徒、教職員で作っていきましょう。

平成29年度2学期 クラブ活動報告

高校 小森 泉

前号で日本拳法部の全国制覇を報告させていただきましたが、その後も、多くのクラブで素晴らしい成績をあげましたので、その報告をさせていただきます。(11月26日現在)

日本拳法部

第64回 大阪私学中学校高等学校体育大会

団体の部 男子:優勝

女子:優勝

2017年 日本拳法総合選手権大会

個人の部 男子:優勝、準優勝

女子:準優勝

第16回 大阪高等学校秋季新人大会

団体の部 男子:優勝

女子:準優勝

*この結果、全国選抜大会に男女とも、大阪代表として出場決定。



バドミントン部

第46回 全国高等学校選抜バドミントン選手権大会
(11月大阪府)

学校対抗の部 男子:第3位

女子:第3位

第64回 近畿高等学校バドミントン選手権大会
(11月兵庫県)

シングルス 女子:第5位

シングルス 男子:ベスト32、他2名出場

ダブルス 女子:1組出場

ダブルス 男子:ベスト32、他2組出場

卓球部

第70回 大阪高等学校新人卓球大会

シングルの部 女子:ベスト8

よって、第71回近畿高等学校卓球選手権大会出場

第72回 大阪高等学校総合体育大会

卓球の部 女子団体戦:優勝

男子団体戦:ベスト16

第70回 大阪高等学校新人卓球大会

ダブルスの部 女子:優勝、第3位



なぎなた部

平成29年度 近畿高等学校なぎなた選手権大会 大阪府予選

団体の部 準優勝

演技の部 第3位

個人の部 第3位

*この結果、平成30年2月3日 和歌山県立体育館にて行われる近畿高等学校なぎなた選手権大会に出場決定。

バレーボール部

全日本高校選手権大会大阪地区決勝ラウンド
ベスト16

大阪高校新人大会1次予選

2部優勝(1部昇格)

美術・漫画研究部

平成29年度第37回近畿高等学校総合文化祭(大阪府代表)

美術・工芸部門 作品5点(3名)出品

陸上競技部

大阪私立高等学校総合体育大会

女子走幅跳 5位入賞

大阪高校夏季陸上競技大会(3・4地区)

女子走幅跳 6位入賞

大阪高校秋季陸上競技大会(3・4地区)

女子三段跳び 2位入賞

女子走幅跳 4位入賞

*この結果、阪奈和高校対抗大会に出場決定



みんなが輝いた運動会



幼稚園 楠本 愛

子どもたちが待ちに待った運動会が10月9日(月・祝)に行われました。本番まで悪天候が続き、なかなかグラウンドでの練習ができず、体育館での練習も行いました。本番当日はみんなの「晴れますように」の思いが届いたのか、素晴らしい秋晴れに恵まれました。



当日の朝、保護者の方と登園してきた子どもたちは、はじめのうちはドキドキした様子でしたが、先生や友だちと挨拶を交わすうちにホッとしたのか、いつもの元気な笑顔に…。

年少組・満3歳児組は遊戯、かけっこで思い思いに小さな身体を動かし、年中組は友だちと一緒にニコニコと遊戯や

競技を楽しみました。年長組はどの競技も一生懸命な眼差しで取り組んでいましたが、特にリレーでは観客の方たちが子どもたちに負けないくらい大きな声の応援で、運動会がぐっと盛りあがりました。最後にはみんな金メダルをもらってキラキラの笑顔がいっぱいでした。



友だちと一緒に練習に取り組む楽しさや嬉しさ、そして本番でのドキドキを経験し、大きな自信に繋がったと思います。これからもみんなが輝ける園生活を目指して努力したいと思います。

ワクワクドキドキあおぞら号での遠足

幼稚園 島田 菜加

運動会が終わった後は、お楽しみの遠足がたくさん。

例年行方、上ノ太子へのみかん狩りとお芋ほり。畑に向かうバスの中で、ワクワクしながら行きました。みんなでとったミカンやお芋、とってもおいしかったですね。

そして、今回は、久しぶりに電車を使っての榎原神宮への遠足。幼稚園から教育大駅まで

歩いたり、電車に乗ったりと、ドキドキがいっぱいでした。歩いていく駅までの道は長く「まだかな?」「もう少し!」の繰り返し。駅のホームでは少し緊張した顔で、待ちに待った「あおぞら2号」に乗車!窓から外の景色を眺め「あ!これ知っている」「あそこに行ったことあるよ」など友達と話しているうちに、榎原神宮前駅に到着。榎原神宮では秋の自然を感じ、色々な種類のどんぐりや、色や形の違う葉っぱに夢中。ひろーい草原では、思い切り転がり、心も体も開放して遊んでいました。たくさん遊んだので、帰りの電車の中ではぐっすりと眠るかと思いきや、大興奮の様子でおしゃべりする姿に、たくましさを感じました。みんなで電車に乗って行く遠足、とっても楽しかったね!



第9回柏原市民 総合フェスティバルに参加しました

法人本部 経営企画室 後藤 知寛

天候が危ぶまれる中、10月14日(土)に、第9回柏原市民総合フェスティバルが柏原市役所前大和川河川敷公園で開催され、本学園からは運営ボランティアや各イベント出演などに延べ60名の学生・生徒が参加しました。

特設ステージでは、大学・高校から4団体が出演し、熱心に練習したダンスや演奏を披露し、柏原市観光大使PR隊に任命されている大学生は、柏原市を盛り上げたい気持ちを表明しました。

商工まつりブースでは大学のリハビリテーション学科と社会福祉学科から3ブースを出展し、来場者の方々に健康や福祉に関する簡易検査や発表を楽しんでいただきました。

今年初めて設置されたハロウィンブースは本学園が担当させていただき、また仮装コンテストでは、大学・短大から3団体が出場、大学のダンスサークル「ばんびっ子」が見事3位に入賞しました!

河内音頭おどり全国大会では、今回も大学のボランティアサークル「Wa!」が参加し、地域の方々と一緒に楽しみました。

学生・生徒たちが地域の方々と触れ合い成長できる貴重な体験となりました。



特設ステージ 沖縄県人会(大学)



特設ステージ ダンス/トントン部(高校)



柏原商工まつりブース出展(大学)



ハロウィン仮装コンテスト(短大)



ハロウィン仮装コンテスト 表彰式(大学)



河内音頭おどり全国大会(大学)

短大学友会主催 「クリーンキャンペーン」の 実施について

大学・短大 学生支援センター 林 広人

今年度初開催のクリーンキャンペーンは、11月22日(水)、大学生・短大生47名、教職員16名、計63名で実施いたしました。

風が強く、気温も非常に低い中での実施ではありましたが、学園周辺を約30分かけて清掃いたしました。普段何気なく通っている道も、ひばさみを片手に歩いてみると、ここにも、そこにも、あそこにも・・・たくさんのゴミが。終了時には、身体も心も温まりました。

ご参加いただきました皆様、
ありがとうございました。



学園をもっと知ろう!(第5回)

～立教館(その2)～

法人本部 経営企画室 植田 陽

前号で取り上げた立教館(その1)に引き続き第2回目のお話です。一部重複はお許しいただくとして、今回の話は玉手山学園の建学の精神「感恩」と特に深い関係があります。本学園は「感恩」の理念を『人は さまざまな恩恵のもとで 生かされている この真理に目覚め 感動と感謝から生まれる 豊かな心と情熱をもって人の幸せを願い 行動するとき 私たちは 成長し 社会に貢献できる ～「ありがとう」に出会い 気づき 感動 感謝の行動から新しい「ありがとう」が 生まれる～』と解釈しています。学ぶ喜び、感謝の気持ちが立教館教育の精神のひとつなのです。

明治6年、立教館を堺県(当時)へ献上することで一旦終焉を迎えたかにもえたその精神は、国分小学校、地元の人々の熱意によって現在に至るまで玉手山学園の教育に活かされ、生き続けることとなったのです。古今東西を通じ教育は国家、文化を支える基盤をなすものです。そして重要なことは、それを支えて培った精神であると考えます。

また立教館は、昭和22年大阪府より「大阪府古文化記念物等保存顕彰規則」に則り、史跡として指定され地元の文化財となり、玉手山学園に永久保存を条件に移転の同意を得るに至りました。移築は昭和39年に行われました。その後第4代目江端文行理事長が「基本的な生活習慣の確立」を重要と考え、昭和54年高校旧校舎(現在は高校本館)5Fに立教館にちなんで宿泊もできる立教寮を開設し、1泊2日の合宿セミナーを実施することで大きな発展を見せました。惜しくも同氏は平成13年に逝去されましたが、遺志を引き継いで昭子夫人が学園資料館を備えた有文館(現在1Fは地域とのつながりを趣旨とする地域連携センターとして利用)を寄贈金も使って設立しました。

以上を鑑み、立教館とは教職員にとっては「私学魂の拠りどころ」であり、学生・生徒・園児にとっては「学習の原点である学べる喜びを示している」と言っても過言ではないでしょう。今後立教館を訪れたり、近くから眺めたりする機会があれば、初心に帰ってみるのはいかがでしょうか。

前回と合わせて立教館についてはこれで一旦終了とさせていただきます。紙面の都合であまり多くを伝えられなかったことは残念ですが、この記事がきっかけとなって興味が湧いたという方は、書籍やネットなどを通じて理解を深めていただくのもいいかと思います。



理事長所感

学園キャンパス内にある「立教館」の“立教”とはどのような意味であると考えますか。教えを受けて自立する…、知を得て志を立てる…、など学生・生徒・教職員が、それぞれの思いを持ってほしいと思います。

ところで学生・生徒のみなさんは、「勉強している」のか「勉強させられている」のか、どちらの気持ちが強いですか。当然のように、学校に通える・勉強できる“ありがたさ”をどれくらい感じていますか。一度、立教館の前で考えてみてはいかがでしょうか。何かに気づくかもしれませんね。学園の建学の精神は「感恩」です。

恩 感

理事長・学園長 江端 源治

建学の精神 「感恩」

人は さまざまな恩恵のもとで 生かされている
 この真理に目覚め 感動と感謝から生まれる 豊かな心と情熱をもって
 人の幸せを願い 行動するとき 私たちは成長し 社会に貢献できる
 ~「ありがとう」に出会い 気づき 感動 感謝の行動から
 新しい「ありがとう」が生まれる~

使 命

建学の精神「感恩」を 実践する人を育成し 豊かな未来社会をつくる

綱 領

1. 学生 生徒 園児のもてる力 志をひきだす
 その教育実践により 学園職員も豊かになる
2. 教育人としての自覚のもと 自己の能力および人格の向上に努め その
 使命を誠実に遂行し 未来を拓く「知」を継承 創造する
3. 各校園は 教育理念のもと 具体的な教育目標を掲げ 常に改革の意識を
 もって 創意工夫 試行を重ね その達成に総力を結集する
4. 継続 発展を支える確かな組織力と 健全な財政基盤を確立する

ビジョン

【玉手山学園の実践・実現】

1. 夢と志を育てる学園(学園ブランドに)
 ~笑顔 あいさつ 優しさを大切に~
2. 学園教育力の向上
 - ・教育の質向上(学修成果(できるようになる)・修学成就)
 - ・組織安定
 - ・4校園体制堅持(大学 短期大学 高等学校 認定こども園)
 - ・健全収支
3. 地域貢献 社会に愛され 成長する学園
4. 教育環境の充実(安心 安全 快適 ECO)
5. 学園総合力の向上
 - ・各校園の相互協力(学園ファミリー意識)

「快適空間」を目指す! *Tama Square* (仮称)

法人本部 施設部 筒井 佑一

Tama Square (仮称)ワーキングチームは、高校蜂の巣校舎解体後の空間整備のため、平成29年6月に女子中心のメンバーでスタートを切りました。メンバーが代表となって学生、生徒、園児のニーズを持ち寄り、議論し、構想策定に向け進めてきました。10月26日には4社での設計プレゼンを行いました。これからは、イメージ図のような提案をいただいた服部建築設計事務所様をパートナーとして、具体的な構想策定への作業はどんどん加速します。学園のシンボルとなり、皆が集える快適空間を目指し、ワーキングチームは一丸となって全力で取り組みます。

どのような空間が出来るか、いつ出来るか、これから検討を進め具体化していきます。皆さん胸に期待を膨らませ、「快適空間」*Tama Square* (仮称)の完成をお待ちください。



Tama Square (仮称)イメージ図(ダミー)

第14回 美葉祭

大学・短大 学生支援センター 稲田 杏奈



10月28日(土)、29日(日)、第14回大学祭(美葉祭)が開催されました。今年度はテーマを『未来を追い求めよう!』と題し、メインイベントであるカラオケ大会、ステージイベント、各種模擬店やフリーマーケット、クラブ、サークル団体による館内イベント、移動動物園、短大各学科によるキッズコーナーやメディカルチェックなどが行われました。また、芸能人ゲストとして、ミサイルマン、もりやすバンバンビガロ、吉田たちを迎えての吉本お笑いLIVE(28日)、人気声優の斉藤壮馬さん、梅原裕一郎さんの声優トークショー(29日)、大道芸人のMr.チョップリン、スマイルパフォーマーQちゃんによるパフォーマンスショー(28、29日)が開催され、多くの観客の皆さんを魅了しました。



今年度は台風の影響で両日共に天候に恵まれず、29日は声優トークショー以外のイベントを13時にて終了することになりましたが、2日間で、約2,500名の来場者にお越しいただきました。



30年度も皆さんに楽しんでいただける企画を実施しますので、ぜひご来場ください。



学園校舎 耐震化率について



法人本部 施設部 田堀 富造

平成25年度、旧耐震校舎(昭和56年以前に竣工した校舎)の耐震診断を行い、翌年度には、短大3号館と高校1号館の耐震補強工事を行いました。また、平成27年度には高校2号館を解体し、平成29年4月1日現在での学園全体の耐震化率は、90.5%となっています。

さらに短大2号館及び高校蜂の巣校舎の解体が平成30年1月に完了する予定で、平成30年3月末日において学園校舎の耐震化率は97.4%となる見込みとなっています。

学園では、今後もさらなる安全・安心の確保に向けて耐震化率向上に取り組んでまいります。

学園広報編集委員会

委員長 山口 美和 (大学社会福祉学部)

委員 横山 学 (大学事務局)

辻村 匡志 (大学事務局)

熊谷 英子 (高等学校)

村井 恵 (幼稚園)

植田 陽 (法人本部)

早川 充昭 (法人本部)

石田 由加里(法人本部)